

表7 年齢別にみたICD-10診断による精神障害の生涯および12ヶ月有病率(括弧内は人数)

ICD-10診断	20-34歳 (N=296)	35-44歳 (N=270)	45-54歳 (N=336)	55-64歳 (N=321)	65歳以上 (N=441)
生涯有病率					
気分(感情)障害					
重症うつ病エピソード(F32.2-3)	4.1% (12)	1.5% (4)	3.3% (11)	3.1% (10)	1.4% (6)
中等症うつ病エピソード(F32.1)	3.0% (9)	2.6% (7)	4.2% (14)	2.8% (9)	1.8% (8)
軽症うつ病エピソード(F32.0)	1.7% (5)	2.2% (6)	2.7% (9)	2.2% (7)	1.6% (7)
全てのうつ病エピソード(F32.x)	8.8% (26)	6.3% (17)	10.1% (34)	8.1% (26)	4.8% (21)
そう病エピソード(F30.1-2)	1.7% (5)	0.4% (1)	0.0% (-)	0.3% (1)	0.0% (-) **
軽そう病(F30.0)	2.7% (8)	0.7% (2)	0.3% (1)	0.6% (2)	0.0% (-) **
気分変調症(F34.1)	1.0% (3)	0.7% (2)	2.1% (7)	3.4% (11)	1.8% (8)
いずれかの気分(感情)障害	11.5% (34)	7.4% (20)	11.6% (39)	10.3% (33)	5.2% (23) **
神経症性・ストレス性障害					
パニック障害(F41.0)	3.0% (9)	2.2% (6)	0.6% (2)	1.9% (6)	1.4% (6)
パニック障害をともなわない広場恐怖(F40.00)	2.4% (7)	1.5% (4)	1.8% (6)	0.9% (3)	0.2% (1)
社会恐怖(F40.1)	4.1% (12)	2.6% (7)	3.0% (10)	2.2% (7)	0.7% (3)
特定の恐怖症(F40.2)	8.1% (24)	7.0% (19)	6.3% (21)	5.3% (17)	5.7% (25) *
全般性不安障害(F41.1)	2.7% (8)	2.6% (7)	2.1% (7)	2.8% (9)	1.1% (5)
外傷後ストレス障害(F43.1)	4.1% (12)	1.1% (3)	0.9% (3)	2.2% (7)	0.2% (1) **
いずれかの神経症性・ストレス性障害	16.2% (48)	13.0% (35)	10.1% (34)	11.2% (36)	8.6% (38) *
精神作用物質による精神および行動上の障害					
有害な使用-アルコール(F10.1)	2.0% (6)	2.6% (7)	2.7% (9)	2.5% (8)	1.6% (7)
アルコール依存症(F10.2)	0.0% (-)	0.7% (2)	0.6% (2)	0.3% (1)	0.2% (1)
有害な使用-薬物(F1x.1)	0.7% (2)	0.0% (-)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.0% (-)
薬物依存症(F1x.2)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.0% (-)
いずれかの精神作用物質による障害	2.4% (7)	3.3% (9)	3.3% (11)	2.8% (9)	1.8% (8)
いずれかの精神障害	22.3% (66)	19.3% (52)	20.2% (68)	19.0% (61)	14.1% (62)
12ヶ月有病率					
気分(感情)障害					
重症うつ病エピソード(F32.2-3)	1.4% (4)	0.0% (-)	1.5% (5)	1.6% (5)	0.2% (1)
中等症うつ病エピソード(F32.1)	1.7% (5)	0.7% (2)	1.5% (5)	0.3% (1)	0.2% (1)
小うつ病エピソード(F32.0)	0.0% (-)	0.4% (1)	1.2% (4)	0.6% (2)	0.2% (1)
そう病エピソード(F30.1-2)	1.0% (3)	0.4% (1)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.0% (-) *
軽そう病(F30.0)	1.7% (5)	0.7% (2)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.0% (-) *
気分変調症(F34.1)	0.3% (1)	0.4% (1)	1.5% (5)	1.6% (5)	0.2% (1)
いずれかの気分(感情)障害	4.7% (14)	2.2% (6)	5.1% (17)	3.4% (11)	0.7% (3) **
神経症性・ストレス性障害					
パニック障害(F41.0)	1.4% (4)	0.0% (-)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.9% (4)
パニック障害をともなわない広場恐怖(F40.00)	1.7% (5)	0.7% (2)	0.6% (2)	0.6% (2)	0.0% (-)
社会恐怖(F40.1)	1.7% (5)	0.7% (2)	0.9% (3)	0.3% (1)	0.5% (2) *
特定の恐怖症(F40.2)	4.4% (13)	5.6% (15)	3.9% (13)	3.7% (12)	3.2% (14)
全般性不安障害(F41.1)	1.4% (4)	2.2% (6)	1.2% (4)	1.2% (4)	0.2% (1)
外傷後ストレス障害(F43.1)	1.7% (5)	0.7% (2)	0.6% (2)	0.6% (2)	0.2% (1) **
いずれかの神経症性・ストレス性障害	8.1% (24)	8.1% (22)	6.5% (22)	5.3% (17)	4.8% (21) *
精神作用物質による精神および行動上の障害					
有害な使用-アルコール(F10.1)	0.7% (2)	0.7% (2)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.7% (3)
アルコール依存症(F10.2)	0.0% (-)	0.7% (2)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.2% (1)
有害な使用-薬物(F1x.1)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.0% (-)
薬物依存症(F1x.2)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.0% (-)	0.0% (-)
いずれかの精神作用物質による障害	1.0% (3)	1.5% (4)	0.3% (1)	0.0% (-)	0.9% (4)
いずれかの精神障害	11.1% (33)	9.6% (26)	10.1% (34)	7.2% (23)	6.1% (27)

* p<0.05, ** p<0.01, 年齢差(カイ二乗検定).

表8 地域住民におけるこれまでおよび過去12ヶ月間の自殺行動の頻度

性別	年齢	解析人数#	自殺を真剣に考えた		自殺を計画した		自殺を試みた	
			%	人数	%	人数	%	人数
これまで								
男性	20-34歳	120	13.3	(16)	3.3	(4)	2.5	(3)
	35-44歳	118	11.9	(14)	5.1	(6)	3.4	(4)
	45-54歳	169	10.1	(17)	0.6	(1)	1.2	(2)
	55-64歳	154	11.0	(17)	2.6	(4)	3.2	(5)
	65歳以上	164	4.9	(8)	1.2	(2)	0.6	(1)
	合計	725	9.9	(72)	2.3	(17)	2.1	(15)
	(年齢差)		NS		NS		NS	
女性	20-34歳	175	16.0	(28)	1.7	(3)	2.9	(5)
	35-44歳	150	16.7	(25)	4.0	(6)	4.0	(6)
	45-54歳	165	13.9	(23)	2.4	(4)	3.6	(6)
	55-64歳	163	12.9	(21)	1.8	(3)	4.3	(7)
	65歳以上	256	5.9	(15)	0.8	(2)	0.0	(0)
	合計	909	12.3	(112)	2.0	(18)	2.6	(24)
	(年齢差)		p<0.01		NS		p<0.05	
合計		1634	11.3	(184)	2.1	(35)	2.4	(39)
過去12ヶ月間								
男性	20-34歳	120	0.8	(1)	0.0	(-)	0.8	(1)
	35-44歳	118	1.7	(2)	0.0	(-)	0.0	(-)
	45-54歳	169	3.6	(6)	0.6	(1)	0.0	(-)
	55-64歳	154	1.9	(3)	1.3	(2)	0.7	(1)
	65歳以上	164	0.0	(-)	0.0	(-)	0.0	(-)
	合計	725	1.7	(12)	0.4	(3)	0.3	(2)
	(年齢差)		NS		NS		NS	
女性	20-34歳	175	1.7	(3)	0.6	(-)	1.1	(2)
	35-44歳	150	1.3	(2)	0.0	(-)	0.7	(1)
	45-54歳	165	3.6	(6)	0.6	(1)	0.6	(1)
	55-64歳	163	1.2	(2)	0.0	(-)	0.0	(-)
	65歳以上	256	0.0	(-)	0.0	(-)	0.0	(-)
	合計	909	1.4	(13)	0.2	(2)	0.4	(4)
	(年齢差)		p<0.05		NS		NS	
合計		1634	1.5	(25)	0.3	(5)	0.4	(6)

自殺行動の質問に対して無回答の者がいるため解析人数は減少している。

* 男女差はいずれの項目、年齢でも有意ではなかった(p>0.10)。

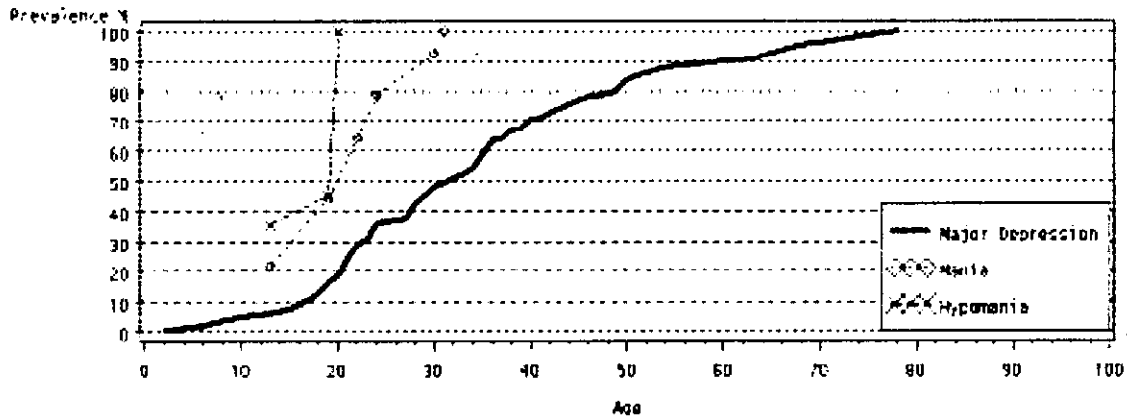


図4 DSM-IV 診断による気分障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）

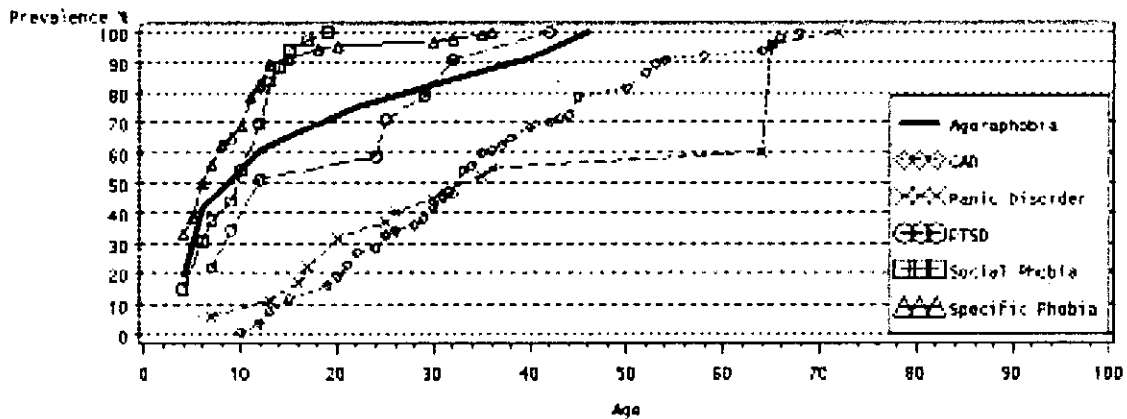


図5 DSM-IV 診断による不安障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）。GAD=全般的性不安障害、PTSD=外傷後ストレス障害。

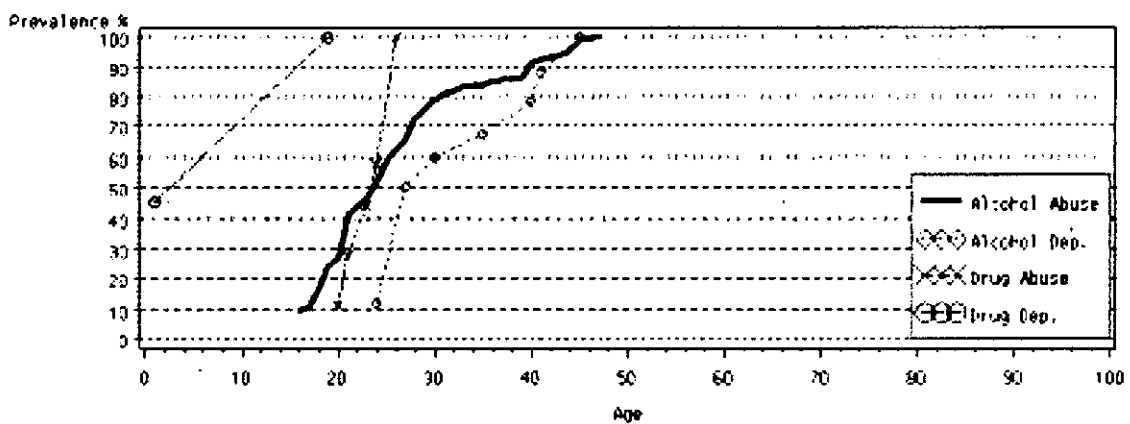


図6 DSM-IV 診断による物質関連障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）

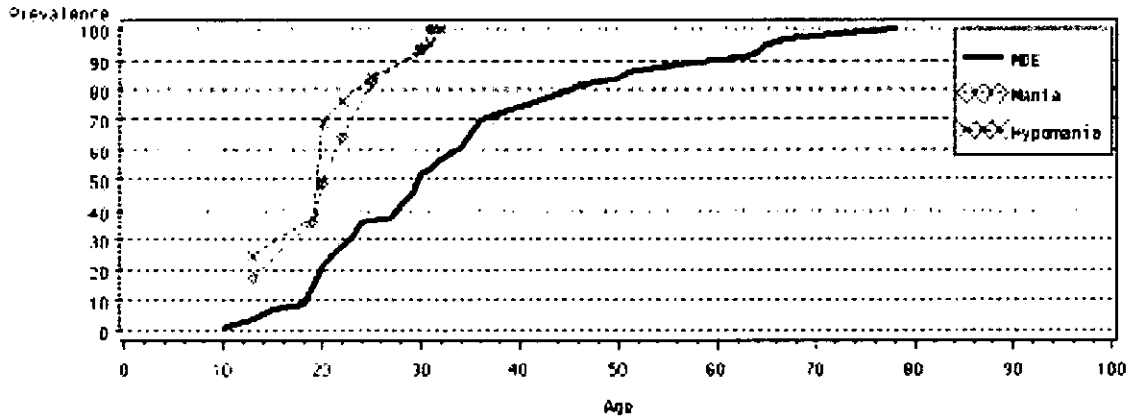


図7 ICD-10 診断による気分（感情）障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）。MDE=うつ病エピソード。

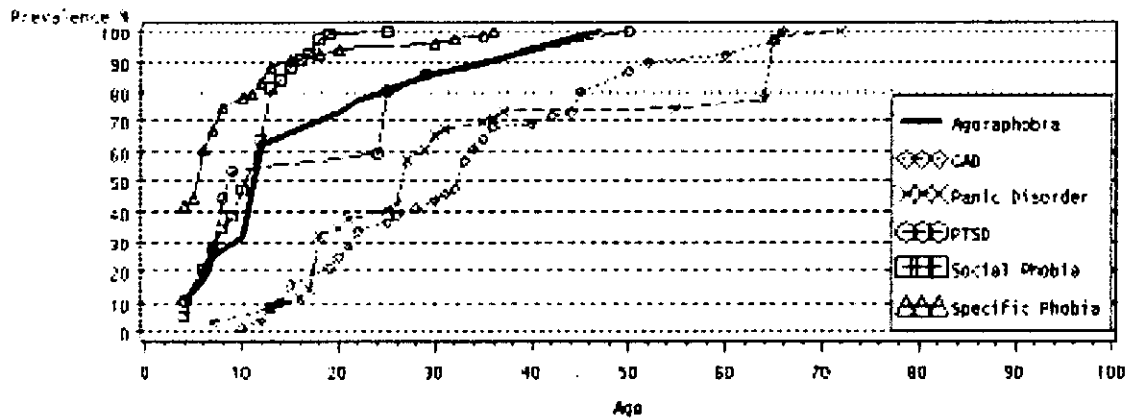


図8 ICD-10 診断による神経症性・ストレス性障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）。GAD=全般的性不安障害、PTSD=外傷後ストレス障害。

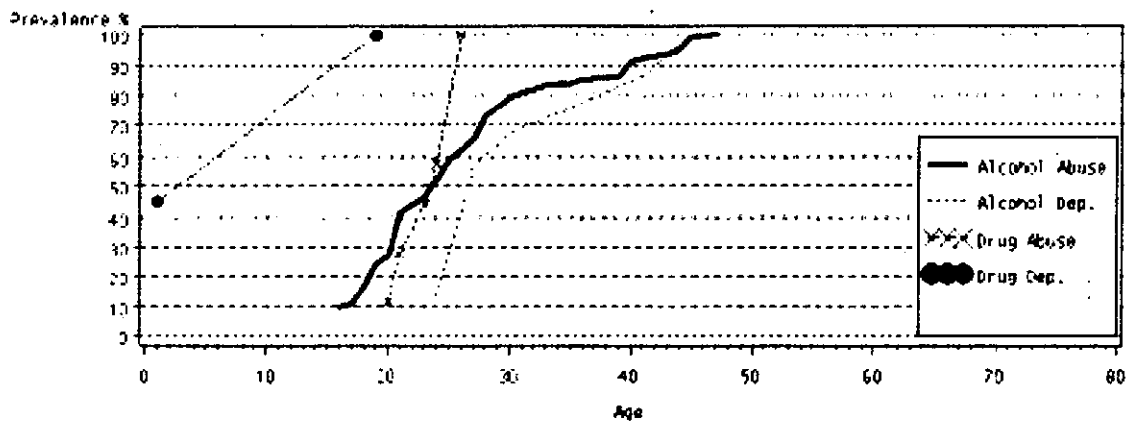


図9 ICD-10 診断による精神作用物質使用による精神および行動上の障害の年齢別累積罹患率（全経験者を 100%とした場合のその年齢までの経験者の割合%、ただし除外診断ルールは適応していない）

表9 基本的属性とDSM-IV診断による精神障害の生涯診断との関連:オッズ比と95%信頼区間(95%CI)

	いずれかの 気分障害		いずれかの 不安障害		いずれかの 物質関連障害		いずれかの 精神障害	
	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI
性別								
男性	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
女性	1.75	0.89-3.43	1.09	0.57-2.09	0.12	0.04-0.39	0.83	0.52-1.31
年齢(歳)								
18-29	2.33	0.87-6.23	3.20	1.14-9.01	1.42	0.36-5.63	2.29	1.10-4.78
30-44	1.37	0.55-3.41	1.85	0.71-4.87	1.14	0.35-3.71	1.29	0.67-2.48
45-64	1.34	0.58-3.08	1.79	0.73-4.38	1.33	0.47-3.74	1.25	0.69-2.27
65 <=	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学歴								
小学校まで	0.29	0.10-0.84	0.39	0.12-1.25	0.52	0.17-1.60	0.36	0.18-0.76
中学・高校	0.85	0.35-2.05	1.03	0.38-2.76	0.42	0.12-1.43	0.70	0.35-1.37
短大・各種学校	0.67	0.24-1.87	1.50	0.55-4.12	0.46	0.12-1.79	0.74	0.35-1.55
大学卒業	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
婚姻								
既婚	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
死別、別居、離婚	1.01	0.39-2.58	1.66	0.77-3.60	0.75	0.23-2.44	1.20	0.65-2.22
未婚	2.89	1.42-5.89	0.95	0.38-2.38	0.80	0.25-2.55	1.63	0.92-2.91
雇用								
就労	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学生	1.53	0.17-14.10	2.05	0.27-15.83	0.50	0.01-25.46	1.33	0.24-7.46
家事	1.21	0.54-2.75	0.77	0.30-2.02	0.13	0.01-1.25	0.72	0.37-1.40
引退	0.52	0.17-1.62	0.36	0.09-1.37	0.24	0.04-1.42	0.36	0.15-0.86
その他	0.30	0.04-2.20	0.57	0.12-2.66	0.51	0.08-3.04	0.39	0.12-1.25

注:全対象者から無作為に抽出された461名に対する追加面接のデータに基づく。

表10 基本的属性とICD-10診断による精神障害の生涯診断との関連:オッズ比と95%信頼区間(95%CI)

	いずれかの 気分障害		いずれかの 不安障害		いずれかの 物質関連障害		いずれかの 精神障害	
	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI
性別								
男性	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
女性	1.61	0.82-3.17	1.17	0.66-2.09	0.12	0.04-0.39	0.78	0.50-1.21
年齢(歳)								
18-29	3.30	1.15-9.47	2.70	1.10-6.63	1.42	0.36-5.63	2.44	1.18-5.01
30-44	1.79	0.66-4.87	2.00	0.91-4.41	1.14	0.35-3.71	1.52	0.81-2.84
45-64	2.18	0.89-5.34	1.20	0.54-2.63	1.33	0.47-3.74	1.31	0.73-2.35
65 <=	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学歴								
小学校まで	0.28	0.09-0.84	0.36	0.13-1.03	0.52	0.17-1.60	0.35	0.17-0.71
中学・高校	0.85	0.35-2.06	1.01	0.42-2.45	0.42	0.12-1.43	0.64	0.33-1.25
短大・各種学校	0.82	0.31-2.21	2.01	0.83-4.82	0.46	0.12-1.79	0.98	0.49-1.96
大学卒業	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
婚姻								
既婚	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
死別、別居、離婚	1.12	0.45-2.77	1.31	0.62-2.73	0.75	0.23-2.44	1.06	0.58-1.94
未婚	2.27	1.08-4.79	1.39	0.67-2.88	0.80	0.25-2.55	1.42	0.80-2.51
雇用								
就労	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学生	1.56	0.17-14.38	4.79	0.96-23.97	0.50	0.01-25.46	2.42	0.51-11.49
家事	0.75	0.28-1.96	0.97	0.42-2.21	0.13	0.01-1.25	0.64	0.32-1.26
引退	0.62	0.21-1.81	0.86	0.35-2.08	0.24	0.04-1.42	0.60	0.29-1.23
その他	0.42	0.07-2.38	0.46	0.10-2.14	0.51	0.08-3.04	0.34	0.10-1.13

注:全対象者から無作為に抽出された461名に対する追加面接のデータに基づく。

表11 基本的属性とDSM-IV診断による精神障害の12ヶ月診断との関連:オッズ比と95%信頼区間(95%CI)

	いずれかの気分障害		いずれかの不安障害		いずれかの物質関連障害		いずれかの精神障害	
	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI
性別								
男性	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
女性	2.13	0.59-7.67	1.19	0.50-2.82	0.07	0.01-0.86	0.93	0.47-1.83
年齢(歳)								
18-29	10.80	1.42-82.18	3.66	1.07-12.56	2.54	0.46-14.03	4.18	1.62-10.80
30-44	2.07	0.20-20.92	1.19	0.32-4.47	1.07	0.18-6.24	1.12	0.40-3.12
45-64	3.79	0.52-27.89	1.43	0.45-4.55	0.10	0.00-3.97	1.03	0.40-2.64
65 <=	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学歴								
小学校まで	0.13	0.02-1.16	0.22	0.03-1.80	1.25	0.16-9.88	0.37	0.11-1.20
中学・高校	0.56	0.13-2.37	1.53	0.39-6.06	0.25	0.01-6.37	0.79	0.28-2.22
短大・各種学校	0.33	0.05-2.27	1.96	0.47-8.14	0.47	0.02-9.52	0.88	0.29-2.71
大学卒業	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
婚姻								
既婚	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
死別、別居、離婚	0.84	0.13-5.59	2.23	0.83-5.99	0.19	0.00-8.76	1.51	0.63-3.66
未婚	3.28	0.96-11.20	1.44	0.47-4.45	1.81	0.40-8.28	2.12	0.95-4.77
雇用								
就労	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学生	1.40	0.03-73.90	4.42	0.55-35.44	1.90	0.04-102.5	2.35	0.30-18.23
家事	0.68	0.11-4.06	0.82	0.22-3.07	0.15	0.00-8.83	0.61	0.20-1.86
引退	0.49	0.06-4.11	0.39	0.06-2.49	0.89	0.13-6.12	0.48	0.14-1.71
その他	0.39	0.01-10.43	0.72	0.10-5.19	0.52	0.02-14.54	0.38	0.05-2.66

注:全対象者から無作為に抽出された461名に対する追加面接のデータに基づく。

表12 基本的属性とICD-10診断による精神障害の12ヶ月診断との関連:オッズ比と95%信頼区間(95%CI)

	いずれかの気分障害		いずれかの不安障害		いずれかの物質関連障害		いずれかの精神障害	
	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI	OR	95% CI
性別								
男性	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
女性	2.06	0.61-6.99	1.08	0.52-2.26	0.07	0.01-0.86	0.85	0.46-1.57
年齢(歳)								
18-29	15.44	1.50-159.2	1.73	0.55-5.44	2.54	0.46-14.03	2.66	1.08-6.56
30-44	3.67	0.30-44.84	1.58	0.61-4.12	1.07	0.18-6.24	1.40	0.60-3.25
45-64	6.57	0.68-63.79	0.86	0.32-2.32	0.10	0.00-3.97	0.90	0.39-2.09
65 <=	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学歴								
小学校まで	0.10	0.01-1.13	0.22	0.04-1.17	1.25	0.16-9.88	0.29	0.10-0.86
中学・高校	0.66	0.16-2.63	1.00	0.30-3.27	0.25	0.01-6.37	0.56	0.21-1.46
短大・各種学校	0.33	0.05-2.27	2.54	0.83-7.78	0.47	0.02-9.52	1.22	0.49-3.06
大学卒業	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
婚姻								
既婚	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
死別、別居、離婚	1.13	0.22-5.82	1.43	0.58-3.53	0.19	0.00-8.76	1.07	0.46-2.47
未婚	3.05	0.91-10.23	1.10	0.41-2.94	1.81	0.40-8.28	1.56	0.73-3.31
雇用								
就労	1.00	...	1.00	...	1.00	...	1.00	...
学生	1.36	0.03-71.70	5.44	0.84-35.41	1.90	0.04-102.5	3.02	0.48-19.05
家事	0.64	0.11-3.90	1.32	0.46-3.76	0.15	0.00-8.83	0.84	0.33-2.16
引退	0.47	0.06-3.98	1.41	0.49-4.05	0.89	0.13-6.12	1.09	0.45-2.68
その他	0.56	0.04-8.69	0.60	0.08-4.38	0.52	0.02-14.54	0.39	0.06-2.42

注:全対象者から無作為に抽出された461名に対する追加面接のデータに基づく。

表13 これまでおよび過去12ヶ月間の心の健康に関する受診・相談行動の頻度:

	これまで		過去12ヶ月間	
	受診率(%)	受診者数	受診率(%)	受診者数
受診・相談先				
精神科医	4.4%	74	1.2%	20
一般医	4.6%	77	2.5%	41
医師合計	8.1%	135	3.5%	58
その他の専門家	1.2%	20	0.5%	8
その他の相談先	2.4%	40	0.7%	12
相談先合計	10.5%	175	4.4%	74
その他の相談先				
インターネット	0.3%	5	0.2%	4
自助グループ	1.5%	25	0.7%	12
電話相談	0.7%	11	0.3%	5

注1:受診・相談先は以下のとおり。精神科医＝精神科医。一般医＝一般開業医あるいはかかりつけ医、循環器医、産婦人科医、泌尿器科医など、その他の医者。医師合計＝精神科医あるいは一般医。その他の専門家＝心理士、ソーシャルワーカー、カウンセラー、心理療法家のようなその他のメンタルヘルスの専門家、看護婦、医療助手など(その他)の医療専門家。その他の相談先＝お坊さん、牧師などの宗教家、漢方医、整体師、心霊術師、霊ばい師などその他の治療家。相談先合計＝以上のいずれかの受診・相談先。

表14 DSM-IVによる診断別の心の健康に関する受診・相談行動の頻度

	これまでの生涯*		過去12ヶ月間*	
	受診率(%)	受診者数	受診率(%)	受診者数
大うつ病エピソード	(N=110)		(N=36)	
精神科医	18.2%	20	11.1%	4
一般医	8.2%	9	2.8%	1
医師合計	24.5%	27	13.9%	5
その他の専門家	2.7%	3	2.8%	1
その他の相談先	7.3%	8	5.6%	2
相談先合計	31.8%	35	19.4%	7
いずれかの気分障害	(N=180)		(N=51)	
精神科医	15.6%	28	9.8%	5
一般医	13.3%	24	5.9%	3
医師合計	24.4%	44	13.7%	7
その他の専門家	6.1%	11	2.0%	1
その他の相談先	7.2%	13	5.9%	3
相談先合計	32.8%	59	17.6%	9
いずれかの不安障害	(N=145)		(N=81)	
精神科医	16.6%	24	6.2%	5
一般医	15.9%	23	9.9%	8
医師合計	28.3%	41	16.0%	13
その他の専門家	4.1%	6	3.7%	3
その他の相談先	7.6%	11	4.9%	4
相談先合計	36.6%	53	22.2%	18
物質関連障害	(N=44)		(N=12)	
精神科医	25.0%	11	16.7%	2
一般医	9.1%	4	8.3%	1
医師合計	29.5%	13	25.0%	3
その他の専門家	2.3%	1	8.3%	1
その他の相談先	4.5%	2	0.0%	0
相談先合計	34.1%	15	25.0%	3
いずれかの精神障害	(N=303)		(N=128)	
精神科医	14.2%	43	5.5%	7
一般医	11.9%	36	8.6%	11
医師合計	22.8%	69	13.3%	17
その他の専門家	4.3%	13	3.1%	4
その他の相談先	5.9%	18	3.9%	5
相談先合計	29.0%	88	17.2%	22

*「これまでの生涯」＝生涯診断ありの者の中でこれまでのこれまでに受診経験ありの者の割合。
「過去12ヶ月間」＝過去12ヶ月間に診断ありの者の中で過去12ヶ月間に受診経験ありの者

注1: 大うつ病エピソードは、躁病あるいは軽躁病エピソードの有無に関わらず大うつ病エピソードの診断基準を満たした者。疾患グループは以下のとおり。いずれかの気分障害＝大うつ病、気分変調性障害、小うつ病、双極性障害、軽躁病、焦燥性うつ病。いずれかの不安障害＝広場恐怖、社会恐怖、特定の(単一)恐怖症、全般性不安障害、パニック障害。いずれかの物質使用性障害＝アルコール乱用あるいは依存症、薬物乱用あるいは依存症。いずれかの精神障害＝以上のいずれかの精神障害＋間欠性爆発性障害。

注2: 受診・相談先は表13を参照のこと。

表15 ICD10による診断別の心の健康に関する受診・相談行動の頻度

	これまでの生涯*		過去12ヶ月間*	
	受診率(%)	受診者数	受診率(%)	受診者数
重症うつ病エピソード	(N=45)		(N=17)	
精神科医	26.7%	12	11.8%	2
一般医	4.4%	2	0.0%	0
医師合計	26.7%	12	11.8%	2
その他の専門家	6.7%	3	5.9%	1
その他の相談先	8.9%	4	5.9%	1
相談先合計	37.8%	17	17.6%	3
全てのうつ病エピソード	(N=124)		(N=37)	
精神科医	16.9%	21	5.4%	2
一般医	9.7%	12	5.4%	2
医師合計	24.2%	30	10.8%	4
その他の専門家	2.4%	3	0.0%	0
その他の相談先	6.5%	8	5.4%	2
相談先合計	31.5%	39	16.2%	6
いずれかの気分障害	(N=149)		(N=51)	
精神科医	20.8%	31	11.8%	6
一般医	12.1%	18	9.8%	5
医師合計	28.2%	42	19.6%	10
その他の専門家	4.7%	7	3.9%	2
その他の相談先	8.7%	13	7.8%	4
相談先合計	35.6%	53	25.5%	13
いずれかの神経症性・ストレス(N=191)			(N=106)	
精神科医	16.8%	32	6.6%	7
一般医	16.8%	32	9.4%	10
医師合計	27.7%	53	14.2%	15
その他の専門家	4.7%	9	2.8%	3
その他の相談先	7.9%	15	4.7%	5
相談先合計	35.1%	67	17.9%	19
精神作用物質による障害	(N=44)		(N=12)	
精神科医	25.0%	11	16.7%	2
一般医	9.1%	4	8.3%	1
医師合計	29.5%	13	25.0%	3
その他の専門家	2.3%	1	8.3%	1
その他の相談先	4.5%	2	0.0%	0
相談先合計	34.1%	15	25.0%	3
いずれかの精神障害	(N=309)		(N=143)	
精神科医	15.5%	48	6.3%	9
一般医	13.3%	41	8.4%	12
医師合計	24.6%	76	13.3%	19
その他の専門家	4.2%	13	2.8%	4
その他の相談先	6.8%	21	3.5%	5
相談先合計	32.0%	99	16.8%	24

*「これまでの生涯」＝生涯診断ありの者の中でのこれまでに受診経験ありの者の割合。「過去12ヶ月間」＝過去12ヶ月間に診断ありの者の中で過去12ヶ月間に受診経験ありの者の割合。

注1:うつ病エピソードは、躁病あるいは軽躁病エピソードの有無に関わらずうつ病エピソードを経験した者。疾患グループは以下のとおり。いずれかの気分障害＝大うつ病、気分変調性障害、小うつ病、双極性障害、軽躁病。いずれかの不安障害＝広場恐怖、社会恐怖、特定の(単一)恐怖症、全般性不安障害、パニック障害。いずれかの物質使用性障害＝アルコール乱用あるいは依存症、薬物乱用あるいは依存症。いずれかの精神障害＝以上のいずれかの精神障害

注2:受診・相談先は表13を参照のこと。

表 16 ころの健康問題で専門家を受診することについての意識:対象者から無作為に抽出された者に対する追加調査

	合計(N=461)		性別		いずれかの精神障害 (DSM-IV診断)		経験なし(N=206)		経験あり(N=255)	
	人数	%	男性(N=182)		女性(N=279)		人数	%	人数	%
			人数	%	人数	%				
ころの健康問題で専門家を受診するかどうか										
絶対に受ける	74	16.1	26	14.3%	48	17.2%	37	18.0%	37	14.5%
おそらく受ける	226	49.0	85	46.7%	141	50.5%	101	49.0%	125	49.0%
おそらく受けない	118	25.6	48	26.4%	70	25.1%	47	22.8%	71	27.8%
絶対に受けない	36	7.8	20	11.0%	16	5.7%	18	8.7%	18	7.1%
不明・拒否	7	1.5	3	1.6%	4	1.4%	3	1.5%	4	1.6%
専門家に対して自分の問題を心を開いて話せるか										
とても心を開いて話せる	187	40.6	84	46.2%	103	36.9%	80	38.8%	107	42.0%
いくらか心を開いて話せる	212	46.0	70	38.5%	142	50.9%	95	46.1%	117	45.9%
あまり心を開いて話せない	40	8.7	18	9.9%	22	7.9%	18	8.7%	22	8.6%
全く心を開いて話せない	14	3.0	7	3.8%	7	2.5%	8	3.9%	6	2.4%
不明・拒否	8	1.7	3	1.6%	5	1.8%	5	2.4%	3	1.2%
専門家を受診したことが友人にしたら恥ずかしいか										
とても恥ずかしい	38	8.2	19	10.4%	19	6.8%	20	9.7%	18	7.1%
いくらか恥ずかしい	168	36.4	62	34.1%	106	38.0%	86	41.7%	82	32.2%
あまり恥ずかしくない	147	31.9	52	28.6%	95	34.1%	58	28.2%	89	34.9%
全く恥ずかしくない	103	22.3	47	25.8%	56	20.1%	38	18.4%	65	25.5%
不明・拒否	5	1.1	2	1.1%	3	1.1%	4	1.9%	1	0.4%

* いずれかの精神障害の経験ありの者で専門家を受診しても「恥ずかしくない」と回答した者が多かった($p<0.05$).
これ以外は有意な差なし.

表17 こころの健康問題による受診の遅れの理由:いずれかの精神疾患の経験者

		受診しようと思って から受診するまで4 週間以上かかった者 (29名)*		4週間以上受診の必 要性を感じながら受 診しなかった者(13 名、ただし質問cから は6名のみ有効回 答)	
質問		割合	人数	割合	人数
a	保険で治療が受けれないと思った	10%	3	0%	-
b	問題はひとりでに改善するだろうと思っていた	62%	18	54%	7
c	その問題は最初、それほど困らなかった	48%	14	17%	1
d	自力で問題に対処したかった	76%	22	33%	2
e	治療が、効果があるとは思わなかった	21%	6	17%	1
f	以前に治療を受けたが、効果がなかった	14%	4	0%	-
g	費用がどれくらいかかるか心配だった	17%	5	0%	-
h	自分が治療を受けている事が知られたら、他人がどう思うか心配だった	24%	7	20%	1
i	交通手段、子供の世話、スケジュールなど治療にゆくことに支障があった	28%	8	50%	3
j	どこに行けば良いか、誰に見てもらえば良いかわからなかった	34%	10	50%	3
k	治療には時間がかかったり、不便だと思った	31%	9	33%	2
l	予約が取れなかった	0%	-	0%	-
m	意思に反して、病院に入れられるのが怖かった	0%	-	0%	-
n	利用できるサービスに満足しなかった	3%	1	0%	-

* 受診した61名の受診までの期間は平均 5.9週(標準偏差7.9週)、中央値2週(最小0週、最大24週)。

表18 生涯および過去12ヶ月の精神障害の経験者に対する薬物療法および心理療法の頻度

	経験者数	薬物療法*		精神療法*	
		人数	%	人数	%
生涯診断					
DSM-IV					
大うつ病エピソード	110	25	22.7%	22	20.0%
いずれかの気分障害	180	40	22.2%	31	17.2%
いずれかの不安障害	145	38	26.2%	28	19.3%
いずれかの物質関連障害	44	13	29.6%	8	18.2%
いずれかの精神障害	303	63	20.8%	43	14.2%
ICD-10					
重症うつ病エピソード	45	11	24.4%	14	31.1%
全てのうつ病エピソード	124	27	21.8%	22	17.7%
いずれかの気分障害	149	38	25.5%	32	21.5%
神経症性・ストレス性障害	191	45	23.6%	28	14.7%
精神作用物質による精神および行動上の障	44	13	29.6%	8	18.2%
いずれかの精神障害	309	67	21.7%	46	14.9%
12ヶ月診断					
DSM-IV					
大うつ病エピソード	36	7	19.4%	7	19.4%
いずれかの気分障害	51	10	19.6%	8	15.7%
いずれかの不安障害	81	18	22.2%	17	21.0%
いずれかの物質関連障害	12	5	41.7%	3	25.0%
いずれかの精神障害	128	27	21.1%	20	15.6%
ICD-10					
重症うつ病エピソード	17	3	17.7%	4	23.5%
全てのうつ病エピソード	37	7	18.9%	5	13.5%
いずれかの気分障害	51	13	25.5%	12	23.5%
神経症性・ストレス性障害	106	23	21.7%	17	16.0%
精神作用物質による精神および行動上の障	12	5	41.7%	3	25.0%
いずれかの精神障害	143	32	22.4%	22	15.4%

* 薬物療法は、専門家からの処方や投薬による治療。精神療法は30分以上のカウンセリングや心理療法。

表19 精神障害の経験者における自殺行動の頻度

	経験者数#		自殺を真剣に考えた		自殺を計画した		自殺を試みた	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
生涯診断ありの者におけるこれまでの自殺行動								
DSM-IV								
大うつ病エピソード	109	34	31.2% **	11	10.1% **	16	14.7% **	
いずれかの気分障害	177	55	31.1% **	13	7.3% **	21	11.9% **	
いずれかの不安障害	142	44	31.0% **	14	9.9% **	15	10.6% **	
いずれかの物質関連障害	44	16	36.4% **	6	13.6% **	8	18.2% **	
いずれかの精神障害	298	83	27.9% **	22	7.4% **	27	9.1% **	
精神障害なし	1336	101	7.6% -	13	1.0% -	12	0.9% -	
ICD-10								
重症うつ病エピソード	44	19	43.2% *	8	18.2% *	11	25.0% *	
全てのうつ病エピソード	123	37	30.1% *	10	8.1% *	14	11.4% *	
いずれかの気分障害	146	50	34.2% *	13	8.9% *	20	13.7% *	
神経症性・ストレス性障害	186	49	26.3% *	16	8.6% *	17	9.1% *	
精神作用物質による精神	44	16	36.4% *	6	13.6% *	8	18.2% *	
および行動上の障害								
いずれかの精神障害	302	81	26.8% *	23	7.6% *	28	9.3% *	
精神障害なし	1332	103	7.7% -	12	0.9% -	11	0.8% -	
12ヶ月診断ありの者における過去12ヶ月の自殺行動								
DSM-IV								
大うつ病エピソード	36	7	19.4% *	3	8.3% *	3	8.3% *	
いずれかの気分障害	51	9	17.6% *	3	5.9% *	3	5.9% *	
いずれかの不安障害	80	10	12.5% *	4	5.0% *	3	3.8% *	
いずれかの物質関連障害	12	2	16.7% *	1	8.3% *	2	16.7% *	
いずれかの精神障害	127	14	11.0% *	5	3.9% *	4	3.1% *	
精神障害なし	1507	11	0.7% -	0	0.0% -	2	0.1% -	
ICD-10								
重症うつ病エピソード	17	6	35.3% *	3	17.6% *	3	17.6% *	
全てのうつ病エピソード	37	7	18.9% *	2	5.4% *	1	2.7% *	
いずれかの気分障害	50	10	20.0% *	3	6.0% *	3	6.0% *	
神経症性・ストレス性障害	103	10	9.7% *	4	3.9% *	5	4.9% *	
精神作用物質による精神	12	2	16.7% *	1	8.3% *	2	16.7% *	
および行動上の障害								
いずれかの精神障害	139	13	9.4% *	4	2.9% *	5	3.6% *	
精神障害なし	1495	12	0.8% -	1	0.1% -	1	0.1% -	

自殺行動の質問に対して無回答の者がいるため解析人数は減少している。

* p<0.05, ** p<0.01, 精神障害なしの者との比較(性別、年齢を調整したロジスティック回帰)。

表20 12ヶ月診断ありの者における精神障害のために生じた生活上の支障および1年間の休業日数

診断／状態	DSM-IVによる12ヶ月診断					ICD-10による12ヶ月診断						
	生活上の支障(0-10点)*					1年間 の休業 日数	生活上の支障(0-10点)*					1年間 の休業 日数
	自宅の 管理	仕事・ 家事	親しい 人間関 係	地域・ 職場の 関係	合計 (0-40 点)		自宅の 管理	仕事・ 家事	親しい 人間関 係	地域・ 職場の 関係	合計 (0-40 点)	
大うつ病エピソード(ICD-10では全てのうつ病エピソード)												
人数	(31)	(29)	(32)	(32)	(26)	(34)	(32)	(29)	(33)	(33)	(26)	(35)
平均	4.1	4.3	5.3	4.1	17.0	12.3	3.6	4.0	5.2	3.8	15.8	6.6
標準偏差	3.1	3.4	2.8	3.1	10.7	36.4	2.8	3.3	2.8	3.2	10.2	20.8
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高	10	10	10	10	38	180	9	10	10	10	35	120
いずれかの気分障害(抑うつ時)												
人数	(37)	(33)	(38)	(38)	(30)	(40)	(38)	(34)	(40)	(40)	(30)	(42)
平均	3.8	4.3	5.2	4.0	17.1	10.4	3.9	4.3	5.1	4.0	17.7	10.2
標準偏差	3.0	3.5	2.9	3.3	10.8	33.7	3.2	3.6	3.0	3.4	11.6	32.9
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高	10	10	10	10	38	180	10	10	10	10	40	180
躁病あるいは軽躁病エピソード												
人数	(7)	(6)	(7)	(7)	(6)	(7)	(11)	(9)	(11)	(11)	(9)	(10)
平均	5.1	7.2	3.4	6.9	24.0	12.0	5.9	6.0	3.7	5.9	23.7	14.4
標準偏差	3.9	2.6	2.8	2.9	6.2	21.9	3.5	3.8	3.2	3.6	8.9	20.1
最小	0	4	0	2	14	0	0	0	0	0	13	0
最高	10	10	7	10	30	60	10	10	10	10	40	60
特定の恐怖症												
人数	(42)	(41)	(44)	(44)	(39)	(43)	(59)	(55)	(60)	(60)	(54)	(61)
平均	2.1	1.7	1.2	0.5	5.2	3.5	1.3	1.3	0.7	0.3	3.3	2.4
標準偏差	3.2	2.9	2.3	1.4	7.1	14.6	2.6	2.6	1.8	1.1	6.1	12.3
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高	10	10	9	5	29	90	10	10	9	5	29	90
社会恐怖												
人数	(7)	(8)	(8)	(8)	(7)	(8)	(10)	(9)	(11)	(11)	(8)	(10)
平均	1.6	4.4	4.1	5.4	13.1	2.9	1.5	3.9	2.8	4.0	11.4	2.3
標準偏差	1.9	3.2	3.6	3.1	7.5	3.8	1.9	2.9	3.5	3.4	6.9	3.6
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高	5	10	10	10	19	10	5	10	10	10	19	10
全般性不安障害												
人数	(16)	(16)	(19)	(19)	(13)	(18)	(16)	(15)	(19)	(18)	(14)	(18)
平均	3.4	5.4	4.1	3.7	17.4	14.6	3.3	5.4	3.6	4.8	16.6	2.5
標準偏差	2.9	2.4	3.4	2.7	7.3	43.6	3.1	2.9	2.7	2.6	7.8	7.1
最小	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
最高	9	9	10	8	28	180	9	10	7	9	27	30
外傷後ストレス障害												
人数	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)
平均	7.0	10.0	9.0	9.0	35.0	90.0	5.8	5.7	4.8	4.8	21.2	45.3
標準偏差	4.2	0.0	1.4	1.4	7.1	127.3	2.7	4.4	3.9	3.9	13.3	71.9
最小	4	10	8	8	30	0	3	0	0	0	3	0
最高	10	10	10	10	40	180	10	10	10	10	40	180
慢性の身体疾患**												
人数	(294)	(262)	(305)	(300)	(248)	(315)						
平均	2.5	2.6	1.2	1.1	7.1	5.0						
標準偏差	3.1	3.1	2.2	2.2	8.7	27.6						
最小	0	0	0	0	0	0						
最高	10	10	10	10	40	365						

* その状態のためにどの程度生活上に支障があったり、過去1年間に仕事や家事ができない日がありましたかとたずねた。生活上の支障はSheehan尺度で評価した。0点がまったく支障なし、10点が最大の支障ありを意味

** 精神障害との比較のため、循環器疾患、がん、整形外科疾患など過去12ヶ月間に対象者が有する慢性の身体疾患のうちからランダムに1つを選んでその影響をたずねた。

表21 諸外国の地域住民調査におけるうつ病の有病率

診断基準	報告者(報告年)	調査国	6ヶ月 a)	生涯
DSM-III	Weissman et al. (1988)	米国(ECA)	2.2	4.4
	Bland et al. (1988)	カナダ	3.2	8.6
	Canino et al. (1987)	プエルトリコ	3.0	4.6
	Faravelli et al. (1990)	イタリア	(5.2)	
	Wittchen et al. (1992)	ドイツ	4.0	9.0
	Angst et al. (1984,1985)	スイス b)	(7.0)	
	Joyce et al. (1990)	ニュージーランド	5.3	12.6
	Hwu et al. (1989)	台湾		0.9-1.7
	Lee et al. (1990)	韓国		3.4
	Chen et al. (1993)	香港		1.3-2.4
	DSM-III-R	Kessler et al. (1994)	米国(NCS)	(7.7)
Andrade et al. (2003)		ブラジル	(5.8)	12.6
"		カナダ	(4.3)	8.3
"		チリ	(5.6)	9.0
"		チェコ	(2.0)	7.8
"		ドイツ	(5.2)	11.5
"		メキシコ	(4.5)	8.1
Bijl et al. (1998)		オランダ	(5.9)	15.7
Andrade et al. (2003)	トルコ	(3.5)	6.3	
DSM-IV	Kessler et al. (2003)	米国(NCS-R)	(6.6)	16.2
ICD-9	Henderson et al. (1979)	オーストラリア	6.1	
	Bebbington et al. (1981)	英国	7.1	
	Vazquez-Barquero et al. (1986)	スペイン	4.6	
	Hodiamont et al. (1987)	オランダ	5.4	
	Mavreas & Bebbington (1988)	ギリシア	7.4	
	Lehtinen et al. (1990)	フィンランド	4.6	

a) 括弧内は1年間有病率。 b) 19-24歳を対象。

(川上憲人: 諸外国の精神疾患の疫学—精神分裂病、感情障害、神経症—。精神医学レビュー 24: 46-53, 1997. に最近のデータを追加した)

平成15年度厚生科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

「こころの健康に関する疫学調査の実施方法に関する研究」 班員名簿

主任研究者

吉川 武彦 国立精神・神経センター精神保健研究所

分担研究者

大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター

川上 憲人 岡山大学大学院医歯学総合研究科 社会環境生命科学専攻

竹島 正 国立精神・神経センター精神保健研究所

中村 好一 自治医科大学公衆衛生学教室

研究協力者

池原 毅和 東京アドヴォカシー法律事務所

岩田 昇 東亜大学総合人間・文化学部/学科 健康科学研究室

宇田 英典 鹿児島県伊集院保健所

立森 久照 国立精神・神経センター精神保健研究所

中根 允文 長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科

三宅 由子 国立精神・神経センター精神保健研究所

平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

「こころの健康に関する疫学調査の実施方法に関する研究」
研究報告書

発 行 日 平成 16 年 4 月

発 行 者 「こころの健康に関する疫学調査の実施方法に関する研究」
主任研究者 吉川 武彦

発 行 所 国立精神・神経センター精神保健研究所
〒272-0827 千葉県市川市国府台1-7-3
TEL : 047-372-0141 Fax : 047-371-2900
